

台風16号の中心気圧は900hPa。これまでに経験したことのないような猛烈な台風で最大限に注意するよう気象庁の会見がありました。これは大変！と庭の植木鉢を1箇所に集め、ロープを張って、前回の台風前に買った非常用発電機の点検をして待ち構えていましたが、さほどの風も吹かず前回の台風に続きまたも肩透かしをくらってしまいました。我が家は首里の南側斜面にあるため、台風が西側（慶良間の方向）を通過すると南風がまともに当たり、庭にものすごい風が吹き荒れますが、今回の様に東側を通過すると東と北の風が首里の山にブロックされ、静かな台風に終わるのです。今日は台風一過の静かな休日、庭木の間から刺す陽と葉の影がくっきりとしています。秋の空気の気配がします。10月号が会員の皆様に届くころには、秋の深まりも感じられるようになってきているかと思えます。9月中には民主、自民、公明の代表選が終了し、10月には臨時国会が開かれています。今度ちゃんと国会審議をするのでしょうか？昔々神々が日本を治めていたころ、10月になると全国の八百万の神々が出雲の国に集まりさまざまなことを審議したといわれています。7月に開かれた島根の日本ペインクリニック学会のときに訪れた出雲大社は国会議事堂を思わせるような荘厳さがあり、向かって左右に並ぶ細長い建物は、神々の宿だったとのこと。左は衆議院、右が参議院かと思いを巡らせました。神様たちも問責決議や審議拒否をやったのでしょうか。

さて、10月号の報告「男女共同参画フォーラムに参加して」では、女性医師の働きやすい環境を作ることは病院の医療の質の向上につな

がり、医師不足も解消されることや、ワークライフバランスを守るための取り組みについて紹介されています。この問題はむしろ男性医師が理解する必要があると思われます。

九州ブロック学校保健・学校医大会、九州学校健診協議会報告では学校での死亡の2/3が突然死で原因不明のものが多く、死因の究明、やAEDの意義についての究明に医師会が取り組んでいることが挙げられていました。

沖縄県医師会勤務医部会講演会「病院勤務医のストレスとその対策」の報告では、医師の身体的問題やメンタルヘルスの問題を早期発見し専門家の治療やアドバイスを受けられるようなシステムの構築が重要であると述べられています。

新生児蘇生法講習会普及事業は沖縄県からの委託事業で、平成24・25年度の2年間に440万円の予算が措置されています。多くの周産期医療従事者が繰り返し受講することが重要で、特に医師の参加が望まれると強調されています。真喜屋智子先生ご苦労さまです。

生涯教育は「呼吸器リハビリテーション」についてでした。わかりやすくりハビリの目的、意義等を解説していて、理解が深まりました。

その他、プライマリ・ケアコーナー、月間（週間）行事お知らせも各先生方の日ごろのご活躍が窺えました。随筆の久場先生は73歳から詩吟を始めているそうで、いつかの機会にご披露いただけたらと思います。

今月号も会員の先生方の現場からの報告と興味深い記事が満載でした。執筆者、医師会事務局の皆様ありがとうございました。

広報委員 平良 豊